

とちぎ高等教育推進まちづくり会議
令和2年度の取り組み状況等について

1 とかち高等教育推進まちづくり会議について

■ 目的

本会は、帯広畜産大学をはじめとする高等教育機関を中心に、地域の特性や優位性を活かし、十勝の発展に必要な人材育成や高等教育機関の整備・充実を図ることを目的とする。

■ 事業内容

- ◇ 人材育成や高等教育機関の整備・充実に向けた推進方策等に関する調査・研究、検討、推進
- ◇ 人材育成や高等教育機関の整備・充実に向けた必要な情報・資料等の収集
- ◇ 人材育成や高等教育機関の整備・充実に向けた必要な広報・啓発活動
- ◇ 帯広畜産大学の整備拡充をはじめ、地域の高等教育機関などの整備、充実に向けた関係官公庁等に対する陳情、請願、要望活動

■ 組織構成

- ◇ 総会：行政機関、経済団体、教育・研究関係機関、農業関係機関等、本会の趣旨に賛同するものをもって構成（21機関）
- ◇ 専門部会（企画・事業部会）：会議の予算・決算や事業計画など、企画総務に係る検討を行うほか、会議に必要な情報収集、調査・研究、検討、整理を行うために設置（12名）

2 とかち高等教育推進まちづくり会議の会議開催経過等について

■ 会議開催

- ◇ 令和2年 4月27日 ・第1回企画・事業部会開催（書面開催）
令和元年度総会議案等について ほか

- ◇ 令和2年 5月27日 ・とかち高等教育推進まちづくり会議総会開催（書面開催）
令和元年度事業報告・決算及び監査報告、令和2年度事業計画・予算（案）決定
役員の選任について ほか

- ◇ 令和2年 12月23日 ・第2回企画・事業部会開催（書面開催）
食品安全管理のスペシャリスト養成について、若者の地元定着と地域課題解決の促進について ほか

■ 要望活動・視察等

- ◇ 令和2年 7月
 - 文部科学省高等教育局 ほか
帯広畜産大学の整備拡充に向けた要望活動
[要望] 運営費交付金の確保・・・運営費交付金、第3期中期目標・中期計画の推進に向けた機能強化促進に係る経費 など
教育研究施設の整備・・・施設整備への支援措置

※ 新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大している状況から、調査・視察は未実施

3 帯広畜産大学と帯広市による主な連携事業等について

(1) フードバレーとかち人材育成事業

■事業内容

- ◇ 「十勝アグリバイオ産業創出のための人材育成事業」（文部科学省補助事業、H19～23）で培ったノウハウを活かし、チャレンジ精神等を持って、企業経営、異業種参入、新事業化、地域の経済発展に寄与する「リーダーシップ」を発揮する人材を育成する。

■令和2年度カリキュラム

- ◇ ビジネスコース 受講者数30名
【ねらい】新事業へのチャレンジや企業活動の効率化、競争力向上に必要な基礎的・応用的知識の習得
【内容】地域産業活性化に向けた経営論・実習、企業戦略論・実習
- ◇ 食品安全管理コース 受講者数12名
【ねらい】食品衛生管理に関する知識及び実技の習得
【内容】食品有害微生物講習（入門）
- ◇ 農業経営者コース 受講者数60名
【ねらい】農業者、支援団体、農業関連企業のニーズに合わせて開講
【内容】農業経営に係る法人化・労務管理等に関するセミナー
- ◇ 農業生産者コース 受講者数31名
【ねらい】農業者、支援団体、農業関連企業のニーズに合わせて開講
【内容】総合的病害虫管理、農場HACCP、GAP（農業生産の工程管理）に関するセミナー
- ◇ 特別講演・講習 受講者数41名
【ねらい】食・農畜産業に関する最新の話題や技術の紹介、本事業における取り組みや成果の周知
【内容】商品開発講座、AI活用セミナー ほか

(2) 馬のいるまちづくり共同事業

■事業内容

- ◇ 帯広畜産大学の知見を活かしながら、馬を活用した様々な活動による教育・研究・社会貢献の充実などの地域貢献とともに、人材の育成に努め、ひいては馬の研究拠点として地域の発展につなげることを目指す取り組み
(平成26年度より実施。ただし、障害者乗馬は民間団体に委託しながら以前より実施していたもの。)

■令和2年度の主な事業

- ※ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、障がい者乗馬体験や適応指導教室の乗馬体験、ちくだい馬フォーラムは中止

(3) 学生と地域がつながるまちづくり支援事業

■事業内容

- ◇ 学生が十勝について学び、理解を深めることで、地域への興味や関わりを持ち、自主的に十勝とつながるきっかけづくりを目指す「関係人口候補化プログラム」と、学生が企画・実施するまちづくり活動を支援することで、地域愛の醸成や新たな視点からの地域活性化を図る「アクション支援プログラム」の大きく2つのプログラムに分かれており、学生が十勝を理解し、十勝で活動するための様々な事業を実施している。(令和2年度より実施)

■令和2年度の主な事業

- ◇ 関係人口候補化プログラム
 - とち学～十勝のキーマンから学ぶ～(令和2年5月13日～令和2年8月5日 全15回)
 - 経営者と「ガチで」学ぶ交流会×勉強会(令和2年10月6日実施 ※オンライン 参加者8名)
 - 十勝旅(令和2年11月17日実施 参加者17名)
 - ちくだいスタートアップ体験プログラム(令和2年10月8日～令和3年2月27日 全8回 参加者18名 最終発表者10名)
- ◇ アクション支援プログラム
 - 学生と地域企業の共同研究(「平飼環境が鶏卵成分におよぼす影響」などの共同研究 計6件)
 - ※ 十勝ジנגリスカン会議、ちくだいらんぷいプロジェクトは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止

(4) その他 帯広畜産大学の主な動き (平成 26 年度以降)

- ◆平成 26 年 11 月 12 日 米国ウィスコンシン州立大学マディソン校と学術交流協定を締結
- ◆平成 27 年 4 月 十勝カレッジ SILO(サイロ)開始
- ◆平成 27 年 4 月 グローバルアグロメディシン研究センター開設
- ◆平成 27 年 8 月 産業動物臨床施設竣工
- ◆平成 28 年 4 月 第3期中期目標・中期計画期間の開始
- ◆平成 28 年 8 月 10 日 十勝毎日新聞社と包括連携協定を締結
- ◆平成 28 年 10～12 月 道東・十勝・帯広国際協力拠点設立 20 周年記念事業への参画
- ◆平成 28 年 12 月 「パラグアイオフィス」設置
- ◆平成 28 年 12 月 畜産フィールド科学センターの搾乳施設及び屠畜・解体施設がISO22000:2005 の認証を取得
- ◆平成 29 年 1 月 帯広畜産大学公式ロゴマークの採用
- ◆平成 29 年 3 月 原虫病研究センターと動物・食品検査診断センターが試験所能力を国際的に証明するISO/IEC17025:2005 の認定を取得
- ◆平成 29 年 4 月 10 日 リベラルアーツ講演会開催
- ◆平成 29 年 9 月 ポーランドの国立研究所およびヴァルミアマズーリー大学と学術交流協定を締結
- ◆平成 29 年 11 月 21 日 「食シンポジウム@畜大～十勝地域における帯広畜産大学の役割を考える～」開催
- ◆平成 29 年 12 月 5 日 日本ハム株式会社と包括連携協定を締結
- ◆平成 30 年 2 月 研究シーズ集を公開
- ◆平成 30 年 5 月 29 日 北海道内国立大学法人(小樽商科大学、帯広畜産大学、北見工業大学)の経営改革の推進に関する合意書を締結
- ◆平成 30 年 12 月 4 日 「人と馬の絆による教育・研究・社会貢献活動」が障がい者の生涯学習支援活動に係る文部科学大臣表彰を受賞
- ◆平成 31 年 2 月 7 日 タイ王国チュラロンコン大学と学術交流協定を締結
- ◆平成 31 年 4 月 16 日 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構と連携・協力に関する協定を締結
- ◆令和元年 7 月 29 日 上川大雪酒造株式会社・十勝緑丘株式会社との酒蔵誘致に係る記者発表
- ◆令和元年 12 月 13 日 帯広畜産大学・北海道大学の「共同獣医学課程」が欧州獣医学教育機関協会による認証取得
- ◆令和 2 年 2 月 25 日 株式会社ロジネットジャパンと連携・協力に関する協定を締結
- ◆令和 2 年 3 月 4 日 「経営統合による新たな国立大学法人の経営方針等について(中間まとめ)」の公表
- ◆令和 2 年 5 月 28 日 帯広畜産大学構内に酒蔵「碧雲蔵」が完成
- ◆令和 2 年 9 月 25 日 帯広商工会議所と連携・協力に関する協定を締結
- ◆令和 2 年 10 月 23 日 「人と馬の絆による教育・研究・社会貢献活動」が北海道福祉のまちづくり賞(活動部門)を受賞
- ◆令和 2 年 10 月 29 日 東日本電信電話株式会社と連携協定を締結